

様式 I 普及に移しうる成果

(成果区分) 実用化技術情報

(課題名) マブナの種苗生産

福島県内水面水産試験場 生産技術部
平成16～17年 事業報告書
分類コード 19-08-23650000

部門名 水産業-内水面(増養殖)-内水面養殖業-その他漁種(内水面)

担当者 實松敦之・神山享一

I 新技術の解説

1 要旨

マブナの養殖において放養池の生物餌料の発生状況に合わせて孵化仔魚を放養することは、初期の生残・成長を向上させるために極めて重要である。マブナは昇温により採卵を促すことができるが、昇温後すぐに産卵するとは限らず、昇温してから産卵するまでにかかる日数も一定しない。そのため、効果的な採卵方法の開発が必要である。

体重1gあたり5IUの胎盤性性腺刺激ホルモン(商品名:ゴナトロピン)を雌雄の腹腔に注射し、飼育水温を18℃から24℃に昇温することで翌日に採卵できた。

産卵には269尾の雌を用いたが、約60%の個体が産卵し、受精率は約80%であった。

水温24℃で卵管理し、110万尾の孵化仔魚を得た。

胎盤性性腺刺激ホルモンを用い、昇温することで計画的な水仔の供給が可能になった。

2 期待される効果

水仔を計画的に生産することで、初期の生残・成長が向上し、生産の安定化と増大が期待できる。これにより、県内のフナ放流種苗生産体制の確立に資することができる。

3 適用範囲

フナ放流種苗を生産する養殖業者

4 普及上の留意点

胎盤性性腺刺激ホルモンの注射、飼育水温の調温施設が必要であり、民間で行うのは困難である。このことから、当面はフナ放流種苗生産においては、当試験場より養殖業者へ孵化仔魚の供給が必要とされる。

II 具体的データ等

1 親魚の由来

採卵には猪苗代湖で「す建て漁」により漁獲されたマブナおよび、前年に同様の方法で漁獲して水産試験場で養成した個体を用いた。

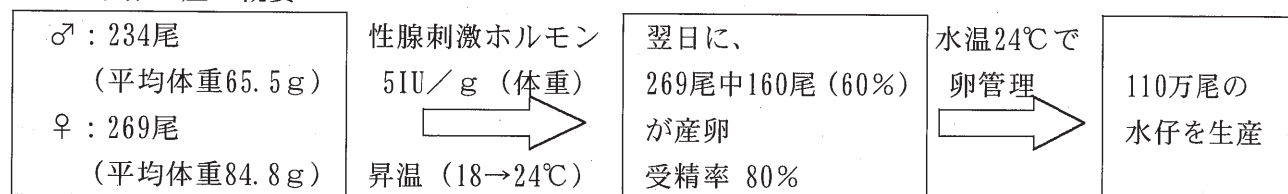
2 産卵親魚

産卵に用いた親魚の魚体測定結果を表1に示す。平均体重は雄で65.5g、雌で84.8gであった。

表1 産卵親魚の魚体測定結果

項目	雄	雌
平均体重±標準偏差 (g)	65.5±21.6	84.8±27.7
最小値 (g)	24.3	19.3
最大値 (g)	191.1	230.0
標本数	234	269

3 水仔生産の概要



4 養殖業者の生産結果

養殖業者の生産結果を表2に示す。

養殖業者6件に合計110万尾の孵化仔魚を出荷した。

養殖業者6件の取上重量の合計は3,040kgであった。

表2 養殖業者の生産結果

養殖池	飼育期間	放養尾数 (万尾)	取り上げ 重量(kg)	取り上げ時*1 推定体重(g)	取り上げ 尾数(万尾)	回収率 (%)
A	6/3 ~ 11/24	15	990	5 ~ 8	15.2	101
B	6/3 ~ 11/14	15	720	5 ~ 8	11.0	73
C	6/3 ~ 11/2	15	430	30	1.4	9
D	6/3 ~ 11/10	45	600	3 ~ 5	15.0	33
E	6/3 ~ 11/15	5	300	8	3.7	74
F	6/3 ~ -	15	0		0.0	0
		110	3,040		46.3	42

*1 業者からの聞き取りによる

III その他

1 執筆者 : 實松敦之

2 その他の資料等: (1) 平成16年度 事業報告書 福島県内水面水産試験場
(2) 滋賀県水産試験場研究報告 第46号

ニゴロブナ雌性発生二倍体の作出とその特性